

syounankai

# 井谷南会報

第60号



## 松楠会会員であることを あなたの人生の骨格に

松楠会会長 藤本 泰雄



最高学府を卒業し、社会人として力を発揮していくには、人とながりを持ちながら、常に自己を認識し、リフレクションをしながら、自らの人生を切りひらいていくことが重要であります。その際の骨格となるのが、将来を見つめながら過ごしたキャンパスでの学びであり、薫陶を受けた恩師の教えであり、切磋琢磨した仲間の姿です。

こうした仲間が集う同窓会の意義は、折々に自らの存在を思い起こし、確認する場であり、大変貴重なものです。

このたび、「松楠会報」と「ようこそ松楠会へ」を合冊し、「松楠会報」第60号として発行することになりましたことは、このような同窓会の意義を、新たに会員となったみなさんにも、しっかりと理解し、活動していただくことになるものと考えています。さらに、現在の同窓会活動においても、これを契機に、若い会員のみなさんの積極的な参加を促し、更なる活性化を図っていかねばなりません。

そして、同窓会が、昔の仲間が集い、懐かしい話に花を咲かせるなど、旧交を温めることを大切にしながら、すべての同窓生が日々取り組んでいる各々の境涯での教育や学びの充実、発展、更なる振興につながる組織となるよう努めてまいります。

しかしながら、各支部においては、2万5千人を超える香川大学教育学部同窓生ではありますが、依然として松楠会の活動を知らない仲間がいます。是非とも、合冊となる機会に、そうした方々も松楠会報をもれなく手にし、松楠会会員として活動し、同窓会の意義を共有できるようご尽力をお願いします。

## 令和の時代の 新しい教育のために

教育学部長 野崎 武司



教員養成学部として、地域の教育界に貢献できる教育学部として、今後もしっかり役割を果たせるよう、様々に学部改革を積み重ねております。「令和の日本型学校教育」という新たなビジョンに対して、香川県教育委員会と共同で新たな「香川県教員等人材育成方針」を策定し、令和5年1月に公表されました。それを骨子として本学のカリキュラムポリシーや「教師になるための学びの計画と履歴」を作り直し、学部段階、大学院段階で具体的に何ができるようになるかを明示します。もちろん授業内容を新たなものに対応させていく計画です。

これまでの子ども理解や授業、生徒指導などに関わる柱に加え、特別支援教育とICT・教育データの利活用が加わります。大学内の人的配置や予算の配分なども見直していかねばなりません。すべては未来の子どもたちのために、力のある教育学部としていくために、改革を進めていきたいと思っております。

学校をはじめとした教育界に貢献できる学部でなければならない、と強く思いますが、その一方で教育界全体が産業振興のために構築されていく点に、もやもやとした思いにも駆られます。学生時代からIT系の起業を行うような若者たちばかりがもてはやされる時代であっていいのか。オタク的な異能を育てることも大切ではあると思っておりますが、何かしら見失ってはいけないものがあるように感じています。皆様としっかり考えていきたいと思っております。

理事長挨拶

つなぐ・つながる  
松楠会

松楠会理事長 植田 和也



香川大学教育学部をご卒業、誠におめでとうございます。教育学部卒業生の会である松楠会へようこそ。

この松楠会は若手教員と経験豊富な先生方をつなぐ重要な役割も担っています。最近では若手教員の活動を支援する事業にも取り組んできました。卒業生の皆様、各支部の活動に積極的にご参加いただきたいと願います。

また先輩の会員の皆様におかれましては、松楠会の各支部が「人と人がつながる場」として、引き続きご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。本部事務局や役員会でも「つなぐ」ために何ができるのかを常に議論してまいりました。今後とも互いに卒業生を支え応援する立場から共に励んでまいります。

現代的な課題が次々と話題になる社会において、私たちは多様な他者と分かち合いながら共に過ごしていかなければなりません。学校においてもそのような資質・能力が求められていることは承知の通りだと存じます。時代や社会の変化とともに、柔軟に変わらなければいけないこと、あえて変えてはいけないこと、状況に応じて見極める力が一層不可欠となっているようです。そのような際、各自が担っている立場の自覚と責任をもち、換言すれば覚悟を決めて課題に向き合うことが益々肝要となっています。

明治18年、内閣制度の創設とともに初代文部大臣に就任した森有禮氏が、全国の教育学問の行政を総括する文部省の責任の重大さについて、その覚悟と心構えを述べた「自警」の書を自ら表しました。現在も大臣室や局長室等にその写しが掲示されているようです。本学部も、郷土や日本の将来を担う人づくりの教育に責任をもって取り組む人材育成の場である覚悟と自覚を忘れずに精進していかなければと再認識させられます。

卒業生一人一人が、社会に出ても人として成長し続けるとともに先輩方とつながることを心より願っています。今後とも松楠会へのご理解とご協力をお願いいたします。

定年退職を迎えて

武藏 博文



平成19年10月に着任して、15年あまりにわたりお世話になりました。私が一番うれしかったことは、多くの学生が教員として巣立ったことです。採用試験に合格すること、さらに教員として務めること、いずれも大変な時代です。ですが多くの学生諸君が挑戦して成し遂げてくれました。彼らの進む道に幸多いことを願いとします。

その次に、私の思い出深いことは、附属特別支援学校にかかわり、校長を務めたことです。讃岐府中の駅から歩き、鳥居をくぐって、太鼓橋を渡り、坂を登ると、校門とその奥に大きな「やまももの木」が見えてきます。校内に入ると、元気な声が聞こえる学校です。私は自分が若い頃に、養護学校に勤めていたことがあり、香川大に赴任する前から、附属養護学校(当時)に関心を持ち、研究発表会に来たことがありました。生き生きと活動に取り組む児童生徒たちに目を見張ったものです。

本学には「特別支援教室すばる」があり、室長をしました。特別支援教室とは、通常の学級に在籍し、学習や生活で困難のある子どもたちに、個別に相談や学習指導を行う機関です。大学院生の研修の場でもあり、心理アセスメント、指導法等の研究開発も担っています。特別支援教育に移行する前の平成15年に開設していて、本学の先見性に驚きます。「すばる」があって、私は香川大に来てよかったと思いました。

松楠会の皆様のご健勝とご多幸を祈念しております。

香川大学教育学部で45年

山神 眞一



昭和51年4月、私は、香川大学教育学部に入学しました。学ランで剣道具を担いで教育学部内体育館での入学式に参加したことを今でも思い出します。入学と同時に保健体育研究室に所属し、体育教官と先輩後輩の仲間にも恵まれた4年間を送ることができました。体育研究室の行事などでは、体育の卒業生の先輩方に大変お世話になりました。今思えばこの先輩方との繋がりが松楠会との接点であり、始まりだったと思います。卒業して筑波大学大学院体育研究科を経て、昭和57年より母校に採用され、令和5年3月末で教育学部教員としての定年を迎えます。母校教員として41年間務めさせていただきました。学部生の4年間と教員の41年間を合わせるとなんと45年にもなります。高校野球の監督の言葉ではありませんが、この45年間は、私の青春であり、とても密だったと反芻しています。

教員になってからは、松楠会の学内理事、また、教

育学部長を務め、平成28年から2期松楠会理事長として運営に関わり、その間、令和元年の教育学部創立130周年記念事業を遂行させていただきました。そして、令和元年10月から副学長を拝命し、教育学部及び松楠会を大学運営の立場から支援させていただき経験をいただきました。

このように学内理事を皮切りに松楠会の活動に様々な形で携われたことは、教育学部卒業生の一人としてこの上ない喜びであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

結びに、松楠会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

※副学長・教授(学生支援センター付)として、令和5年9月30日まで定年延長。



## いづれの空に

山本 茂喜

香川大学教育学部に着任したのは私が三十歳になる年のこと。大雪の上越から高松の港に着いたときの陽光の明るさが今も印象に残っています。

以来三十五年、本当にあっという間の時でした。

思えば合宿や研修旅行、懇親会など学生や国語の先生方との付き合いもコロナ禍の近年とは比べものにならないほど密接であり、忙しくも楽しく充実した日々を過ごすことができました。

卒業生を含め私を育ててくれた多くの方々に深甚なる感謝を伝えたいと思います。

魂はいづれの空に行くならん我に用なきことを思ひ居り

これは明治・大正期の歌人島木赤彦の歌ですが、今の私も同じ思いです。

香川大学教育学部が、そして我が国語研究室がどこへ行くのか。

もはや私に「用なきこと」(関係のないこと)とわかってはいても、やはり気になるものです。

これからは一人のOBとして、遠くから見守っていきたいと思います。

長い間、本当にありがとうございました。



## 退職のご挨拶

毛利 猛

本年3月をもって、香川大学教育学部を退職いたします。在職中は、松楠会の皆様から、多大なご厚情とご支援を賜りました。心よりお礼申し上げます。

私は、元号が昭和から平成へと変わった1989年4月に、本学部に赴任しました。その前年には、瀬戸大橋線が開通しており、海に架かる大橋から瀬戸内海の多島美を初めて目にしたときは、これから始まる四国・香川大学での新しい生活への期待もあって、すごく感激しました。

私の専門は教育学で、教育学部では生徒指導論や学級経営論などの科目を担当しました。とくに生徒指導論は、教免法上の必修科目になりましたので、平成以降に香川大学教育学部に入学した方は皆、大きな教室で私の講義を受けたことになります。教育学部の教員らしい仕事として、「教職支援」には私なりに力を注ぎできました。教員採用試験対策として始めた「教職の総合的研究」という授業を長らくコーディネートし、教職セミナーとのタイアップという形で、多くの先生方の協力を得ながら試験対策を実施するという、本学部における「教職支援」の体制を築くことができました。

学部長の職を務めた2015年10月からの4年間は、「ミッションの再定義」を受けた一連の学部改革から「有識者会議」報告書への学部としての対応が求められた時期でした。この間、香川大学教育学部の実情を踏まえて、文科省が進める「教員養成政策」に対して半ば「適応」し、半ば「抵抗」しながら、少子化の進行を含む社会状況の変化の中での教員養成のあり方を模索してきました。最後になりましたが、香川大学教育学部と松楠会のますますのご発展をお祈り申し上げ、ご挨拶させていただきます。



## 限られた時間のなかで

豊島 修

コロナとともに交流人事教員としてやってきて3年。私は大学を去ろうとしていますが、いまだにコロナは収まる様子がないところをみますと私が「嵐を呼ぶ男」というわけではなかったようでその点は少し安心しています。ただ大学での貴重な時間は、今振り返ってみるとあっという間に過ぎてしまったというのが正直なところです。

これまで高校で出会う大学生といえば、教育実習生でした。高校を卒業して3年ほどの間に何が実習生をこんなに立派な大人に成長させているのか不思議に思っていました。学生と様々な場面で接しているうちに大学での学びや経験がやはり高校とは大きく違うことに思い至りました。

高校までは、本人の興味とは別に広く授業が行われ、生徒も受け身で与えられた問題に取り組む姿勢が多かったといえます。しかし大学では自分の好きなことや目標に向かって、自分で考え行動することが求められ、専門的な学びを指導する教員やサポートするスタッフも充実しています。学生たちが主体的な学びの中で大きく成長していると実感しました。実習生を送り出す側の立場で、将来の教員を目指す学生を指導する機会を与えていただいたことは、私にとっても学びが多く、大変貴重な経験となりました。

限られた時間ではありましたが、この経験を高校現場に持ち帰り、大学との今後の連携に活かしていきたいと思います。色々とお世話になり、ありがとうございました。

# 支部だより



## 高松支部

## Takamatsu



### 足を運んで繋がりを広げよう

支部総会は書面議決が続き、会員が直接顔を合わす機会が激減しています。しかし、令和4年には地域委員会(地域委員20名が中心)や「高松支部だより」の発行等を行い、活動を繋げています。今後とも、総会・講演会(8月に開催予定)、地域委員会、若手会員が集う会(随時開催)を工夫し、参加者の元気に繋がる活動にしたいと思えます。若手会員も繋がりを広げようとしています。爽やかさと柔軟な視点をもち若さ溢れる皆様の、活動への参加を心からお待ちしています。

後藤 文男(教育・昭和46年卒)

## 丸亀支部

## Marugame



丸亀支部は3年ぶりに支部総会を開催することができました。久しぶりに会員の親睦を深めることができました。

役員改選では、これまで17年間の長きにわたって支部長を務めていただいた前田先生がご勇退されました。近年恒例になっていた前田先生によるおもちゃ作りは時間が限られていたため実施できませんでしたが、参加者全

員に手作りのおもちゃを配っていただきました。最後まで前田先生らしく心が温かくなりました。長きにわたりご指導ありがとうございました。

平田 貴久(教育・昭和57年卒)

## 坂出支部

## Sakaide

坂出支部は地区会員94名、現職会員120名の計214名で活動しています。

夏季休業中には、坂出市の若年教員を対象としたワークショップを開催し、各教科で授業づくり等を行いました。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため総会では中止となりましたが、評議員会では、今後の活動についての話も出ましたので、活動形態を工夫しながら支部会員の交流ができる方法を探っていきたいと考えております。



若年研修  
附属坂出小学校での  
研修

榎並 浩(大学院・平成7年卒・香川大学教育学部附属特別支援学校)

## 大川支部

## Okawa

松楠会大川支部への入会を心より歓迎いたします。大川支部は、さぬき市と東かがわ市の教育学部卒業生で組織し、令和4年度の会員数は、現職150名、OB222名、計372名です。

大川支部は、役員と8地区13名の地区評議員、支部全小・中学校16名の学校評議員、教育委員会等1名の評議員によって運営しています。令和4年度は、総会の開催に向け、5月に役員会、7月に役員・評議員会を開催しましたが、コロナウイルス感染拡大により、8月の総会を中止して、全会員に総会資料送付して総会に代えました。

六車 重規(教育・昭和48年卒)

## 母校教員の異動

### 退職

令和5年 3月31日	退職(定年)	武藏 博文	教授	R5.4.1付け名誉教授(予定)
	退職(定年)	山神 真一	教授	R5.4.1付け名誉教授(予定)
	退職(定年)	山本 茂喜	教授	R5.4.1付け名誉教授(予定)
	退職	毛利 猛	教授	
	退職	青木 高明	准教授	
	退職	東浦亜希子	准教授	
	退職	豊島 修	准教授	交流人事教員

## 訃報

西山 徹(元会長) 令和5年1月21日 ご逝去

宮下 良造(坂出支部長) 令和4年8月24日 ご逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 小豆 支部

Syozu

約3年に及び新型コロナウイルスはまだ収束せず、令和4年度末には「第8波」が本格化している。だが、3年ぶりにコロナウィルスの行動制限が解かれると、今春寺社への参拝者・故郷への帰省者・海外旅行者等の人出で、鉄道や空港のターミナルは混み合った。

さて、令和4年度の「ようこそ松楠会へ」(20号)では各支部からの「メッセージ」で「トラの雄飛を期待して」、「松楠会報」(59号)へは「支部だより」に「開店休業中」との一文を寄せたが、結局何の活動もできない閉店状態で終わってしまった。

けれども、今年こそ干支の卯に因んで支部活動を飛躍させたいと思っている。

坂下 公臣(学芸・昭和37年卒)

## 木田 支部

Kita

松楠会木田支部では、7月7日(木)に三木町平井小学校で役員会を行い、8月の「支部総会」「懇親会」ならびに木田教育会との共催で行っております「講演会(講師：香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 長谷川 修一特任教授)」に向けて準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染防止のため、残念ながら中止となりました。

来年度は、新型コロナウイルスの終息を願うとともに、どの行事にも世代を超えて会員が集い、楽しい時間を過ごせるようにと考え実施してまいります。

児玉 博美(教育・平成2年卒・三木町立平井小学校)

## 綾歌 支部

Ayauta



卒業おめでとうございます。みなさまの綾歌支部へのご入会を心から歓迎いたします。

綾歌支部にはOB会員155名、現職会員168名の計323名が所属しています。主な活動は、年1回の会員相互の親睦を兼ねた綾歌支部総会を8月に、支部活動の報告や会員の近況を紹介した綾歌支部だよりの発行を9月に行っています。支部総会では、総会のあとに講演会や音楽会、若手教員の実践研究発表、懇親会を開催しており、同年代、先輩・後輩が一同に会し世代を超えた様々な交流の場となっています。残念ながらここ3年間は新型コロナウイルス感染症の影響で支部総会は開催できませんでしたが、会員の情報発信・交流の場となる綾歌支部だより

の発行は続けてきました。来年度こそは支部総会場で、新入会員の皆さまとともに会員相互の親睦を深められることを願っています。そして、新入会員の皆さまの新たな知識や考え方、そしてフレッシュな発想を私たちの支部活動に吹き込んでいただき、活動がさらに充実・発展することを願っています。

香西 弘志(教育・昭和52年卒)

## 仲善 支部

Tyuzen

仲善支部には、OB会員176名、現職会員130名が所属。コロナ禍のため、この3年間は、慶弔活動と会報の配布、会員名簿の作成等の活動だけになっています。

今まで支部独自で実施しておりました、会員が一堂に会する7月の総会(折り紙教室、昼食懇談会を含む)、1月の新年祝賀の会(吟詠とバイオリン鑑賞、昼食懇親会を含む)が安心して盛大に開催できる日を待っています。

コロナ禍を凌ぎ、学業を全うされ卒業される皆さん、若い力を職場で発揮し、松楠会に集ってください。「世代を超えて楽しく交流できる松楠会」を目指しています。お待ちしております。



絵画教室

平井 清三(教育・昭和44年卒)

## 三観 支部

Sankan



二年間をサイクルとする支部活動は、令和2・3年度の総会をまたも書面決議とし、新4・5年度をスタートしました。「書面決議」をこの機会に会則に明記しました。新しいメンバーで、このコロナ禍の機会をとらえて支部の在り方や可能性をさぐるのがひとつの活動指針となりました。令和4年度は会報発行の年です。全体テーマがあれば内容に興味をわくし視点や立場の違いもでて皆さんに問題提起ができるかと執筆者も考えました。カラー印刷に変えました。見ごたえのある会報に変身できました。できることはわずかでも、若い人・働き盛りの人・



高齢の人をつなぐことを大事に活動の可能性を探りたいものです。

片山 祐子(教育・昭和43年卒)

## 愛知支部

## Aichi

香川大学教育学部ご卒業の皆さん、卒業おめでとうございます。松楠会愛知県支部へのご入会を心より歓迎いたします。

愛知県支部では、残念ながらここ数年、これといった活動はありません。事務局では幹事を新入会員とのコンタクトが取り易いように、5年刻みをお願いしたりして工夫を凝らしています。が、総会を開催するまでに至っていません。

他の支部も同様ようですが、愛知県に就職された方の把握が大変困難な状況になっています。支部の会員名簿すら作成が出来ない状況です。

愛知県に就職されましたら、後述の事務局に是非ご連絡くださるようお願いいたします。

新入会員の皆様のお力をお借りして、支部活動をより活発なものにしていきたいと考えています。

大寺 敏之(学芸・昭和39年卒)

※愛知支部は、令和5年4月より休会となります。

## 大阪支部

## Osaka



ご卒業おめでとうございます。

香川大学教育学部大阪支部は「香友会」という名称です。会員の高齢化が進み、現役のものが少なくなるにつれ、参加者は減ってきていますが、年1回7月頃に総会を開催しています。

少子化による採用の減少と個人情報保護により、大阪で採用された卒業生の把握、名簿作成が大変困難になっています。私もそうでしたが、若いときは、卒業生が集まることの意義をあまり感じないとは思いますが、就職して30数年を経て、多角的な人と人の結びつきの大切さを痛感しています。

是非とも事務局あてのご連絡をお待ちしています。

古川 晴紀(教育・昭和48年卒)

## 兵庫支部

## Hyogo

兵庫支部(紫雲会)では、3年間総会等の行事が出来ま

せんでした。また、兵庫県は五国と言われ、広い範囲に会員がいます。人とのつながりが難しい状況です。教員以外の方も参加できるように、総会の内容を工夫しています。若い方中心の若手懇親会も企画しています。香川大学同窓生として、旧交を温める場として多くの方の参加をお願いしたいです。兵庫県下約280名の会員が集えるように、今年こそ、総会、若手懇親会を実施し、年齢を超えた交流を実施したいと考えています。

木岡 正雄(教育・昭和48年卒・一般社団法人兵庫教育会)

## 岡山支部

## Okayama



岡山県内には、多くの松楠会の仲間が、それぞれの立場で活躍されています。

岡山支部では、その多くの仲間の絆を築き、一緒に頑張るために例年以下のような支部行事を行っています。

8月(山の日)岡山支部総会・講演会・懇親会

11月(第2日曜日)秋の支部行事

(岡山各地の街並み探訪)

新型コロナウイルスの感染予防のために、残念ながら、両行事とも中止した年もありましたが、昨年度は、11月に同時に実施することができました。本年度は、ぜひ両行事とも無事実施できることを願っています。

その際には、心を込めて「ご案内」をお届けしますので、学友誘い合っご参加くださり、仲間としての絆を深めていきましょう。

小林 巧(教育・昭和55年卒)

## 徳島支部

## Tokushima

卒業する皆さん、ご卒業おめでとうございます。松楠会徳島支部への入会を心より歓迎いたします。

松楠会徳島支部は、最も新しい支部です。今年度は、新型コロナウイルス感染予防のために実施できませんでしたが、毎年、夏に総会並びに親睦会を行っています。親睦会には20名ほどが参加し、近況報告やなつかしい大学時代の話などで盛り上がっています。

今後人も人との繋がりを大切にしながら、松楠会徳島支部を活性化していきたいと考えていますのでご協力をお願いします。

橋本 隆(教育・昭和59年卒・北島町立北島小学校)

## 幼児教育コース

古市 雪乃

入学してすぐ、幼児教育コースに入学した理由を話す授業がありました。他のみんなは保育士になりたいという人ばかりで、特に理由もなく地元の大学に来た私は、本当にここに来てよかったのかと少し後悔しました。ですが、たくさんの行事や実習を通し、楽しくもあり大変でもある4年間を過ごしたことで、たくさんの学びを得ることができました。今では幼児教育コースで学べたことを本当に嬉しく思っています。

今まで学んでこなかった、乳幼児という分野についての知識が増えたことは私にとってとても収穫がありました。保育士という仕事、子どもを取り巻く環境について考えたことは社会に出ても生き続けると思います。自分自身の成長に繋がった4年間になりました。

コロナの影響もあり、思うように動けなかった時期もありましたが、とても濃い大学生活を送ることができました。先生方をはじめ、支えてくださった全ての方々に心より感謝し、これからの生活を楽しくしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。



## 心理領域

大西 希美

香川大学に入学してからの4年間は、私にとって本当に充実したものでした。自分のしたいこと、学びたいことを明確にし、日々努力を続けることが出来たと思えます。

大学1年生の頃の授業をきっかけに、自ら学んでみたいと思った心理学。心理学研究室に入って、たくさんのことを経験させてもらいました。心理学実験、心理検査に統計学、メンバーと協力しながら取り組んだ追試研究…大変なこともあったけれど、私にとって全てが新しく、毎回ワクワクでいっぱいでした。ここでしか学べないことも多くありました。そして、心理学研究室には、どんな道に進んでも温かく受け入れ支えてくださる先生方、友人達がいます。一人一人がそれぞれの道を一生懸命に進んでいく姿を、私は誇りに思っています。

4月から私は教員になります。自分がやりたいと思うて選び、進んできた道です。これからも努力し続け、日々成長していきたいと思えます。ありがとうございました。



## 教育領域

平岡 佑梧

入学してから4年。私達は、コロナ前後、どちらの大学生活も過ごした最後の代になります。教研に入った2年生からは、目しか出ていない顔と話すこと



がいつしか当たり前になっていました。日付が近づくと中止が発表されるイベント。「またか・・・」。ただ、そんな中過ごした資料室での時間は、他のどの代よりも密で忘れられない時間となった自信があります。しょうもない会話で笑う日々。普段なら何も思わないような日常が、最高の時間となりました。先輩方に1つ自慢したいことがあります。それは「コロナの制限がかかっても、夢を追いつけたこと」です。毎日0時を回っても電気がついている資料室。あふれかえっている参考書。泣くまで繰り返した面接練習。大学初のプロ野球志望届提出。制限がある中、それぞれが自分の限界に挑みました。

私たちはよく「コロナに振り回された代」と表現されます。それは間違いです。私達はコロナがあったから気づけたこと、挑戦できたことが多くあります。新しい風を吹かせました。逆に「コロナを振り回した代」と表現されたいくらいです。これから進む道はそれぞれ異なりますが、コロナで制限されたことを子どもたちに伝える大人ではなく、自分たちがコロナ禍でやってきたことを自信をもって話せる大人になりたいです。

最後に、ありがとう教育学部。ありがとう教研。

## 生活・総合領域

前川 杏実

時の流れは早いもので、香川大学に入学して4年が経とうとしています。私は大学で楽しく、学びの多い充実した4年間を過ごすことができました。

生活・総合領域に所属した2年生の春。私たちは、新型コロナウイルスの影響で授業のスタイルを変えることを余儀なくされました。それに伴い、未来からの留学生やインターンシップ、教育実習も方式が変わり、新たなことに挑戦し続けた日々でした。私は、毎週開催されていたコアタイムが、思い出の1つとして強く印象に残っています。誰かと話す機会が少なくなった中で、お互いのことを共有し合えた時間があったからこそ、私たちは様々なことを成し遂げることができたのではないかと私は考えます。

研究室の仲間や先生方、周りの人の支えがあったからこそ充実した学生生活を送ることができました。今後進む道はそれぞれ違いますが、大学で学んだことを胸に、より成長し続けたいと思えます。4年間本当にありがとうございました。



## 特別支援教育領域

和泉 康志郎

私の大学生活での思い出として1番にあげられるのは、やはり3、4年時の特別支援学校の教育実習である。新型コロナの影響で、2回実習に行くことになり、私は小学部と中学部に配属された。特別支援学校は小学校より、児童の実態把握がとても大事である。児童の実態把握をしていないと、どのように対応したらよいかや、なぜそういった行動をとっているのかが分からず、何もできない状況になってしまう。私はまずは実態把握を学ぶことから始めた。先生の対応を見せていただきながら、児童の連絡帳などから児童一人ひとりの実態を理解することに努めた。すると、1週間くらい経つと児童に一人ずつ対応することが出来るようになり、児童もどんどん心を許してくれている感じもして、とてもいい経験になった。4月からは公立の小学校で教員として働くことになるので、周りの人と協力しながら、児童としっかり向き合っていきたいと思う。



## 国語領域

三宅 菜々子

香川大学で過ごした4年間で振り返ってみると、多くの学びと楽しい思い出を得ることができたと感じています。

国語国文学研究室に入ってから、国語教育への理解を深めたり、古文や漢文をはじめとする国語に関する様々な分野を学んだりしました。国語研究室では、お互いに支え合い、共に楽しむ時間を過ごすことができました。教育実習では、助け合い、励まし合うことで、よりよい授業を行い、無事終えることができました。コロナ禍のため、思うように行事ができませんでしたが、オンラインで歓迎会を行うなど親睦を深めることができました。

春からはそれぞれ新たな環境での生活が始まります。国語研究室で学んだことや思い出を胸に今後も頑張っていきます。

最後になりましたが、このような充実した4年間で過ごすことができたのは担任の渡邊先生をはじめ国語研究室の先生方のご指導があったからだと思います。心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。



## 社会科領域

玉井 亮輔

大学生活4年間で振り返ると、教育実習や教員採用試験など様々な出来事がありました。社会科領域の活動の中で、私が印象に残っていることは四国遍路の世界遺産登録を目指した活動の一環として行った授業実践です。この活動は若い世代にも四国遍路や寺の歴史などに対する興味をもち、理解してもらうためのもので、実際に善通寺市立筆岡小学校の児童を対象に、同学年の仲間と協力しながらウォークラリーなどを踏まえた授業を行いました。授業の準備をしていると私たち自身も学ぶことができ、授業を終えると達成感を味わうことができました。新型コロナウイルス感染症が流行し、十分に仲間と関わるのが難しかったのですが、このような活動を機に少しずつ領域内での交流が増えていきました。一緒に大学の講義を受け、たわいもない話で盛り上がり、毎日がとても楽しかったです。

4月からは香川県で教員として働きますが、これまでお世話になった方々に感謝しながら、日々成長していきたいと思います。



## 数学領域

眞部 友輔

私にとって香川大学での4年間はあまりにも短すぎました。しかしその短い期間の中には、たくさんの学びや出会いが凝縮されています。数学研究室で過ごした3年間は特に色濃く私の記憶に残っています。

振り返ってみると、授業と定期テストに悩み続けた2年次、コロナウイルスに振り回されまくった3年次、就職活動と卒業研究、遊びに全集中した4年次でした。数学科のメンバーとは、わからないところを教え合ったり、教材研究や模擬授業で意見を言い合ったり、授業以外の場所でも関わる機会が多くありました。

同じ数学研究室のメンバーや優しく対応してくださる先生方がいたからこそ3年間を乗り越えられたのだと感じています。このように私の香川大学でも4年間は、多くの人との出会いに恵まれたものだったと考えています。

春からはそれぞれいろいろな場所で、新しい環境での生活が始まりますが、何事にも挑戦する心意気で頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、数学研究室の先生をはじめ、関わってくださった方々に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。



## 理科領域

森本 佳那

一人暮らしを始め、新生活に心を躍らせた4年前。それからたくさんの方々と出会い、様々なことを経験し、卒業まで残りあと数ヶ月。この4年間は私にとってかけがえのないものとなりました。

特に理科領域に配属された2年生からは理科領域ならではの講義や実験が多く、自分の将来について考えるきっかけになりました。2年生はレポートやテストに苦しみました。仲間と助け合いながら乗り越えたのがいい思い出です。3年生では初めて授業づくりや実習を経験しました。そこから実験をどのように授業に取り入れるのか、どのように単元を構成すれば子どもの意識が上がるのかなどを考えました。理科という教科について学ぶだけでなく、将来自分が教壇に立った時を想像しながら考え続けるのが面白いと思えたのが3年生です。4年生はそれぞれの進路に向けて仲間と助け合いながら頑張りました。仲間と一緒に夜遅くまで勉強したり、模擬授業を見せあったり…。つらい時期も仲間のおかげで乗り越えることができました。進路はそれぞれ異なりますが、大学での学びや経験を活かして今後も励みます。4年間本当にありがとうございました。



## 美術領域

小笠原 紘恵

香川大学教育学部で過ごした4年間は、常に挑戦の連続だったように思います。教育実習をはじめ、未来からの留学生、まんのう公園でのあじさいパラソルワークショップ、美術研究室作品展など……美術領域に所属していなければ経験できなかったことも多くありました。

4年間を通して、絵画やデザイン、彫刻などの様々な作品を作り続けてきましたが、思うようにならず悩むこともありました。そんな時、支えとなったのは他の誰もいない研究室の仲間たちです。「もの作りが好き」「絵を描くのが好き」という強い気持ちを持った仲間が傍にいてくれたことで、悩んで立ち止まることがあったとしても「自分も負けずに頑張ろう」と気持ちを奮い立たせることができました。

最後になりますが、ご指導いただいた先生方をはじめ、私たちの大学生活を支えてくださったすべての方々へ心より感謝申し上げます。卒業後はそれぞれ異なる道へ進みますが、かけがえのない4年間の経験と学びを指針として、邁進してまいります。4年間ありがとうございました。



## 音楽領域

金谷 侑紀

私たちの大学生活は、破壊と建設の四年間であったと言えるのではないのでしょうか。一年次は、平時の練習に加えて、音楽領域の行事の運営に目まぐるしく奔走していました。しかし、目に見えないものによって日常は破壊され、二年次から自粛が続き、全てが家の中で完結するようになりました。そんな中でも、音楽の輝きは失われませんでした。三年次になり、決行か中止か、あらゆる行事において決断が迫られるなか、音楽を奏でられる道を模索し続けました。一度失われた行事を再構築する作業は、まさに破壊と建設であったように思われます。

自粛の圧力も弱まってきた四年次の初夏、私たち音楽領域は瀬戸内国際芸術祭に参加しました。瀬戸内の伝統生活文化・芸術を発信するために、先生方や卒業生の方々をはじめ、研究室が一丸となって取り組みました。この企画に携わった貴重な経験は、今後の人生の大きな糧になると予感しています。

最後になりますが、領域や学部にかかわらず多様な学びの場を与えてくださった全ての方々に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 保健体育領域

鷹取 駿

私たちが所属している保健体育科領域は他の領域の研究室ではできない貴重で楽しい経験をすることができません。遠泳実習では1～2時間の間で寒さに耐えながら小豆島のエンジェルロードの真横を泳いだり、ボッチャやシッティングバレーなどのパラスポーツを研究室で対抗戦をして競い合ったりしました。武道実習では山神先生の丁寧でユーモア溢れるご指導の下、朝から夕方まで、「武」に対して真剣に向き合い、相手を思いやることを身につけることができました。また、体研杯という月に1回のイベントがあり、そこで2年生から4年生が混ざって和気あいあいとバレーやサッカーなどのスポーツを楽しむこともできます。

保健体育科領域の魅力は、授業や研究室の活動の中で自分が専門としている種目の知識を生かして考えを共有したり、試行錯誤しながら高め合うことができることだと思います。ここで得た考えを共有したり、高め合う力は、社会に出る上でとても重要で、自分自身もこの保健体育科領域でこの力を伸ばすことができました。

2年生の春から新型コロナウイルスの影響により対面授業や研究室のイベントを行えず、体育で体を動かすことや人と関わることができない状況が続きました。ですが、先生方の手厚いサポートや授業における工夫により、大学生活を楽しく、有意義に過ごすことができました。4年間、お世話になりました。ありがとうございました。



## 技術領域

木津 夏生

大学生生活を通して、同じ教員を志す仲間たちと様々な経験を通して共に成長することが出来たと感じています。技術研究室では、電子機器に関する実験や、情報リテラシーについての学習を中心に行っており、座学というよりかは「実際にやってみる」といった講義が多いです。プログラミング教材を使って、簡単なゲームを作ったり、電気の熱を使ってパンを焼いたりなどユニークな講義も沢山ありました。また、先生方も非常に優しい方が多く、私の代は全員文系出身だったのですが、とても丁寧に指導して頂きました。人間関係、講義内容共に素晴らしい環境で学ぶことが出来たと思います。



## 家庭領域

入江 紗若

香川大学教育学部での4年間は、濃く、楽しい思い出ばかりで、本当にあっという間に卒業の時間が近づいてきました。入学時には不安でいっぱいだった私も、尊敬する先生方や友人たちに刺激を受け、助けられながら、成長することができました。

家庭領域では、理論と実習の両方で充実した講義やサポートを受け、知識と技能の習得のために努力しました。講義を通し、教師として、そして生活者として、より良く生きていくための力を身に付けるとともに、さらに家庭科という教科を好きになることが出来ました。家庭科領域で共に切磋琢磨した仲間たちとの出会いは、大学生生活で一番の宝物です。

ご指導いただいた先生方をはじめ、たくさんの方々に支えられてこの4年間を駆け抜けることができました。卒業後も香川大学での思い出を胸に、教員として学び続けていきたいと思えます。大学生生活で関わったすべての皆様、本当にありがとうございました。



## 英語領域

横山 ちひろ

香川大学での4年間で振り返ってみると、本当にあっという間に過ぎていったように感じています。コロナ禍でいろいろな行事ができなかったり、3年次では対面での実習が実施出来なかったりなど、もどかしいと感じることも多かったです。そのような状況の中でしたが、専門性の高い個性豊かな英研の先生方、素敵な優しい先輩方や、元気いっぱいな同期たちに囲まれ、コロナ禍でも、資格の取得など自分たちにできることを見つけて取り組み、充実した日々を送ることが出来ました。英研のみんなと就活や教採などに向かって共に頑張ることができたこと、一緒に研究室で色々な話を盛り上がり、息抜きをしたり出来たことは素敵な思い出です。



春からはそれぞれの道に進みますが、大学生活を支えてくださった方々に感謝を忘れず、香川大学で学んだことや大切な思い出を胸にしまっ、精一杯頑張っていきたいと思えます。4年間本当にありがとうございました。

大学院 教育学研究科

## 高度教職実践専攻(教職大学院)

高橋 由佳

現職として、短期留学制度を利用し、教職大学院で学ぶ機会をいただきました。大学院では、学部から進んだストレートの方、そして小学校、中学校、特別支援学校の現職の方など、年齢や経験様々な仲間と共に学ぶことが大変楽しく、良い刺激となりました。院生室では、これから教職を目指す院生の皆さんと話をしたり、違う学校や校種の現職の方とそれぞれの学校の話をしたり、楽しい日々の中で、自分の教育観も広がりました。大学院の先生方の講義では、これまでの実践と理論が繋がっていくことを実感したり、様々なテーマで意見を述べ、討議したりする中で、多くの気づき、学びの深まりがありました。実習では、附属学校園や行政機関を訪れ、様々な視点から学校を見ることができました。

大学院でできた多くの方々との繋がりをこれからも大切にしていきたいと思えます。そして、大学院で学んだことを、現場での実践に繋げていきたいです。ここで学べたことに感謝していただきます。ありがとうございました。



# 松楠会ではこんな活動もおこなっています

## 若手会員活性化事業

平成27年度から、「若手会員活性化事業」として活動奨励金を設けています。

各支部若手会員活動奨励費…支部活動の一環とした  
若手会員の自主活動への助成

支部の若手会員が中心となり企画した、松楠会会員が中心となり実施する活動に対して必要経費を上限5万円まで支援します(ただし、松楠会の若手会員の参加人数が5名以下の場合は、2万円を上限とします)。各支部の若手会員の交流や活性化につなげてください。

例：レクリエーション関係…人間関係・絆づくり(先輩～後輩)  
学びの場づくり等…新しい実践研究や指導方法への挑戦、アイデア教材交流会

### 令和3年度 報告

#### ●綾歌支部

宇多津北小学校 年間4回実施  
「第3学年国語 主体的・対話的な授業づくり」  
宇多津北小学校 十川 隼 他  
若手会員6名、他現職教員15名参加



## 教職自主サークル

毎週月曜日の夜に行われている学生の自主的活動「教職自主サークル」に対し、助成をおこなっています。

### 令和4年度 報告

●先輩教員に模擬授業を指導していただく会  
令和4年7月30日(土)  
先輩はご自宅等、学部学生・大学院生は香川大学教育学部各教室にてオンラインで行いました。  
豊島 修、谷口弓恵、倉野晴代 他  
先輩教員16名、教職志望の4年生39名が参加しました。



## 松楠会支援事業(詳細は、松楠会HPに掲載)

高校生以下の児童・生徒を対象にした青少年の健全育成事業、教育活動事業などに対し、助成をおこなっています。

### 令和3年度 報告

#### ●少年・少女ものづくり体験inさぬき

大川支部 頼富康子 他 松楠会会員6名  
令和3年7月25日(日)から令和3年8月1日(日)にかけて5回実施(児童延べ81名、保護者延べ56名が参加)  
さぬき市大川公民館・東かがわ市白鳥コミュニティセンターにて

松楠会会員6名が中心となり、夏季休業中に各市内小学校に参加希望者を募り、「木工体験教室」と「動くおもちゃ作り教室」を開催した。参加者は電動糸鋸やドリルを使った「木馬型振り子時計」や、「ペットボトル風車」等の作成を親子で楽しんだ。



#### ●松楠会杯 かがわ水ロケット甲子園 2021

綾川支部 金関太郎 他  
令和3年8月25日(水)に実施(小学生66名、中学生1名、保護者82名、指導者13名が参加)  
香川県総合運動公園多目的広場にて

宇宙やロケットなどを通して、子供及び大人の科学リテラシーを育成することを目的とし、児童と保護者が身近な教材である水ロケットを協同で自作、試射しながら改良を行った。

「飛距離競技」、「定点競技」の成績優秀者には「松楠会杯(トロフィー)」が贈呈された。





## 学生支援事業

教育学部の学生が参加し、教育学部が主催する行事・活動に対し、助成をおこなっています。

### 令和4年度 報告

#### ●第21回 未来からの留学生

令和4年10月9日(日)  
 香川大学教育学部  
 (幸町北キャンパス)にて

教育学部の学生・教職員が、地域の小学生を「未来からの留学生」として招待し、各領域の特色を生かした講座を企画・開催。



#### ●第16回 わくわくコンサート - Recovery 復活・回復 - (テーマ地域：EU)

令和5年1月29日(日)  
 レクザムホール(香川県県民ホール)  
 大ホールにて

音楽領域の学生・院生を中心に、卒業生、教員等で構成された実行委員会が、地域の子どもたちや保護者に向けた、無料コンサートや指揮者なりきり撮影会などを開催。



## 会員表彰

本を出版されたり、発表会・展覧会の開催、競技会等で優秀な成績を挙げられたりした松楠会会員の方々を表彰しています。

なお図書出版は、表紙に会員の氏名が掲載されている場合とさせていただきます。



(これまで出版・表彰された本の一部です。)

## 会員の広場

松楠会ホームページに「会員の広場」を設けています。

### ● 随想

松楠会員の方々が執筆した、昔懐かしい思い出話や日々の生活で思うことなどを掲載しています。



### ● 同窓会情報

学年や研究室ごとに集まった同窓会の報告や開催告知を掲載しています。



掲載を希望する方は松楠会事務局までお知らせ下さい。

## 令和6年度松楠会支援事業の募集について (予定)

高校生以下の児童・生徒を対象にした青少年の健全育成事業、教育活動事業などに対する松楠会支援事業を下記の要領で募集します。

- 1 支援する事業は、松楠会の会員が企画・実施の中心になっているもので、1事業につきおおよそ15万円を上限とする。
- 2 提出書類……………(1) 企画書 (2) 予算見積書 (3) その他参考資料等
- 3 応募締め切り……………令和6年1月31日(水)
- 4 提出先及び問い合わせ先……………〒760-8522 高松市幸町1-1 香川大学 教育学部同窓会 松楠会事務局  
 TEL: 087-832-1414  
 メールアドレス: syounan@kagawa-u.ac.jp
- 5 備考……………(1) 同一事業の採択は、4回目までとします。  
 (2) 選考結果については2~3月中に通知します。  
 (3) 対象となる児童・生徒に募集案内チラシ等を配布する際には、この事業が松楠会(香川大学教育学部同窓会)の支援を受けていることを明記し、そのチラシを企画書または報告書に添付して提出してください。

企画名

申請者

令和4年度支援事業	ものづくり体験INさぬき	代表 頼富 康子
令和3年度支援事業	ものづくり体験INさぬき	代表 頼富 康子
	感動体験! 松楠会杯 水ロケット甲子園2021	代表 金関 太郎

参考

# 令和4年度松楠会役員

\*は、今年度新しく交代された方です。

## 役員

会長	藤本 泰雄*					
副会長	中西真理子 貞廣美津子 木村 彰彦*					
顧問	野崎 武司					
理事長	植田 和也					
学内理事	小野 安司	山神 真一	西田 智子	坂井 聡	片岡 元子	山本木ノ実
	宮本 賢作	塩井 実香	中島栄美子	清水 顕人	大浦みゆき	高橋 智香
	稗田 美嘉	大西えい子	谷口 弓恵	倉野 晴代*		
	<small>(但し、谷口、倉野の学内理事期間は、人事交流の期間とする。)</small>					
附属理事	轟 秀明*(高松)					
	榎並 浩*(坂出)					

## 支部事務局

	郵便番号	住 所・勤務校	担当者
高 松 支 部	761-8084	高松市一宮町672-1 高松市立一宮小学校	香西 謙二*
丸 亀 支 部	763-0071	丸亀市田村町973 丸亀市立城南小学校	守家 恵子*
坂 出 支 部	762-0024	坂出市府中町綾坂889 香川大学教育学部附属特別支援学校	榎並 浩*
大 川 支 部	769-2301	さぬき市長尾東901-1 さぬき市立長尾小学校	渡邊ひとみ*
小 豆 支 部	761-4426	小豆郡小豆島町馬木甲68-5	坂下 公臣
木 田 支 部	761-0702	木田郡三木町平木710-1 三木町立平井小学校	児玉 博美
綾 歌 支 部	769-0105	高松市国分寺町柏原1034	鷺辺 達子
仲・善 支 部	766-0005	仲多度郡琴平町苗田160-2	横田 孝志
三・観 支 部	768-0060	観音寺市観音寺町甲2558-1 観音寺市立観音寺小学校	新田 秀樹
愛 知 支 部	489-0877	愛知県瀬戸市東赤重町1-38-1 (R5.4月より休会)	糸 綾子
大 阪 支 部	567-0884	大阪府茨木市新庄町6-8	信垣 綾子
兵 庫 支 部	651-2277	兵庫県神戸市西区美賀多台4-7-20	木岡 正雄
岡 山 支 部	701-1211	岡山県岡山市北区一宮892-9	小林 巧
徳 島 支 部	771-3201	徳島県名西郡神山町阿野五反地187-1	大草 晴香

## 事務局報告

令和4年度評議員会(総会)の報告については、松楠会ホームページをご覧ください。

### 令和3年度 松楠会支援事業

- 少年少女ものづくり体験INさぬき(大川支部 代表 頼富 康子 他)
- 松楠会杯 かがわ水ロケット甲子園2021(綾歌支部 代表 金関 太郎 他)

### 令和3年度 学生支援事業

- 第15回わくわくコンサート(令和4年2月6日(日) サンポートホール高松)

### 令和3年度 表彰者

- 山本正幸 『香川の生き物たち』出版 2万円
- 清水顕人 『さあ始めよう 道徳科授業づくり入門』出版 2万円



丸亀市立郡家こども園 副園長 藤井 幸



一人一人が輝き、響き合い、育ち合う園生活をめざして

私は、現在丸亀市立郡家こども園に勤務しています。園児は、3歳児～5歳児150名程が通園しており、地域の方や、道向かいにある郡家小学校の先生方などに温かく見守られながら伸び伸びと生活しています。本園は『心がつながる喜びを感じながら、いきいきと遊ぶ子どもを育てる～子どもと一緒に創り出す豊かな環境をめざして～』というテーマのもと、環境の一つ一つに保育者の思いや願いを込め、子どもたちが環境と出会う中で生まれる遊びを通して、一人一人が輝き、響き合い、育ち合う園生活をめざしていきたくと取り組みを重ねています。

特に、園庭の自然環境は、生活の一部となるよう創意工夫していくことで、その子なりの感じ方ややり方で植物や生き物、水や風、土や泥などに出会い、見たり触れたりしながら、その子ならではの気



付きや発見、四季の変化や命が巡ることなどを体験を通して感じていくこと大切にしています。今は、子どもたちと一緒に園庭にビオトープを作ろうと取り組んでいます。硬い土を掘りながら「池が出来たらザリガニを飼いたいな」「メダカも泳がせたいね」とイメージも膨らみ会話が弾みます。掘っていく



過程では、色々な石が出て来ることが面白く、石の発掘作業に夢中になったり、一度、水を溜めてみようとした時には、泥水の中にザリガニを入れてしまい「おらんようになった!」と皆で慌ててザリガニの搜索をしたり…。子どもたちは、驚いたり笑ったり、時に困った出来事に出合ったりしな



がら心と体をいっぱい使って楽しんでいきます。まだまだ、

ビオトープの完成は遠そうですが、一人一人の子どもたちの素晴らしい感性や発想に心を寄せ、一緒に作っていきたくと思っています。



日々、悩むことも多いですが、これからの未来を生き抜く子どもたちが幸せを感じながらたくましく、それぞれの道を歩んでいけるよう、職員みんなで力を合わせ、試行錯誤を楽しむ姿勢を大切にがんばっていきたくと思います。

編集後記 ■ ■ ■

- 原稿執筆にご協力いただきました皆様のおかげで松楠会報第60号を発行できますことを心より感謝申し上げます。
- 本号より、例年7月に発行しておりました「松楠会報」と卒業生・修了生の入会をお祝いする「ようこそ松楠会へ」（3月発行）を合冊とすることいたしました。これまで先輩方から受け継いできた伝統と、新しく柔軟な力を融合した松楠会として歩んでいきたくと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

松楠会ホームページ

松楠会

検索

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~syounankai/>



松楠会報

第60号

発行日 令和5年3月24日

発行人 藤本 泰雄

植田 和也

編集 片岡 元子

稗田 美嘉

塩井 実香

大西えい子

瀧岡 歌織

香川大学教育学部同窓会 松楠会